

ぬかづけ 日記 連載⑦



白糠町のPRのことばかり考えるわたし
白糠漬けの日常より。

地域おこし協力隊

キタダ ジュンコ
北田 純子

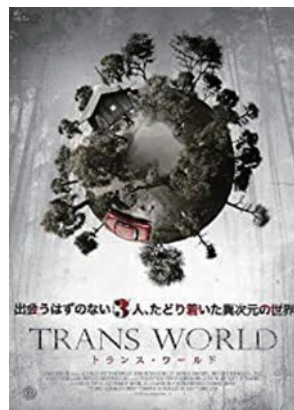


Profile

1973年11月23日生まれ。
千葉県千葉市出身
2019年4月から白糠町の観光をPRする地域おこし協力隊として着任。
趣味は映画鑑賞、読書、アウトドア。

■北田純子ブログ

「シラスカAtoZ」
<https://shiranuka.wixsite.com/atoz>



おもしろかった映画「トランス・ワールド」2011年米

伝統漁法で海の未来を開く 白糠のヤナギダコ漁

先日初水揚げを迎えたヤナギダコ。皆さん、そのおいしさはすでにご存じと思いますが、白糠のヤナギダコ漁が近年注目を集めている海洋プラスチックごみ（以下、海洋プラごみ）問題の改善に、大きく貢献していることをご存じでしょうか？

本州以南でタコ漁といえばタコつぼが一般的ですが、ほとんどがプラスチック製。表面積が大きいため海流の抵抗を受けやすく、つないだ縄も切れやすい。縄が切れるとそのまま海にとどまり、回収が非常に困難です。一方、タコ生息域の海底が砂泥の白糠では、タ

コつぼを設置すると沈んでしまうため、縄に枝系・針・石(重し)・ガラス管(浮き)を結んだ「空釣り縄」という仕掛けで漁を行います。空釣り縄は、仕掛けの表面積が小さいため海流の抵抗も少なく紛失リスクも低い。加えて漁の際、海底に届く針はさまざまなゴミを捉えます。その多くがプラスチックごみで、操業を終える5月までに、まさに山ほどの量が回収されます。

海洋プラごみの問題点は2点ありと私は考えます。

一つは海洋生物・海鳥の誤飲による死や、サンゴの死による海中の二酸化炭素(CO2)濃度の上昇・住処とする生物の減少など、海洋環境や生態系への悪影響です。

もう一つが、アジア太平洋地域での漁業・養殖業で年間約3・6億ドルにもものぼる損失(WWF公式ホームページより)を生むといった、産業へのマイナス影響です。こうした環境への負荷が少ないのが、空釣り縄漁なのです。

空釣り縄漁には針仕事(＝仕掛けの補修・手入れ)が欠かせません。昨年、白糠漁業協同組合タコ縄部会の山田明会長さんのお宅にお邪魔して、その様子を拝見させていただきました。すべてが手仕事に加え、その数の多さから、漁に出られない日も作業に追われるそうです。それでもこの漁法を続けているのは「白糠の土地に合っていて、環境負荷も少ないこの漁法を守っていききたいから」と教

えてくださいました。おいしいヤナギダコを届けてくれるだけではなく、海洋環境の改善、ひいては漁業の継続につながる白糠の空釣り縄漁。そのすばらしさを通じて、自然環境に思いをはせると同時に、ヤナギダコ漁にかかわる皆さんに心からの敬意を捧げます。



針仕事(仕掛けの手入れ)をする山田明タコ縄部会長(写真は昨年の訪問時に撮影)